

「統計データの利活用」についてのアンケート結果

統計への関心が高まる中、統計の有用性を理解し、データを有意義に活用してもらうために、県では今年度から3か年の計画で、統計に関する講演会の開催、統計相談窓口の開設、小・中学校での統計出前授業等を行う「しが統計アクション事業（STAT）」を実施します。

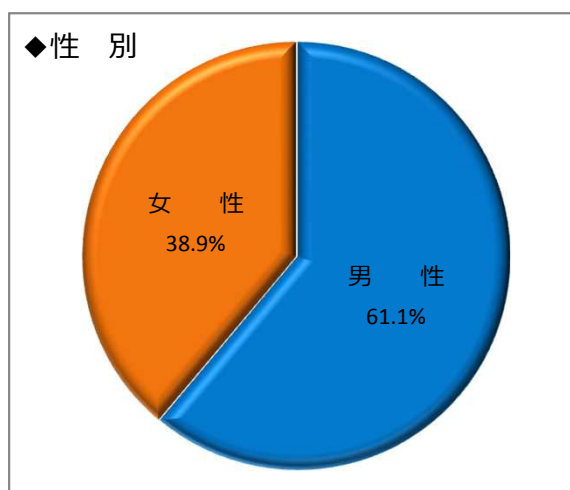
統計の利活用や調査協力への状況等を把握し、今後の事業展開の参考資料とするために、本アンケート調査を実施しました。

- ◆ 調査時期：平成28年6月
 - ◆ 対象者：県政モニター 396人
 - ◆ 回答数：350人（回収率 88.4%）
 - ◆ 担当課：県民生活部 統計課
- （※四捨五入のため、割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

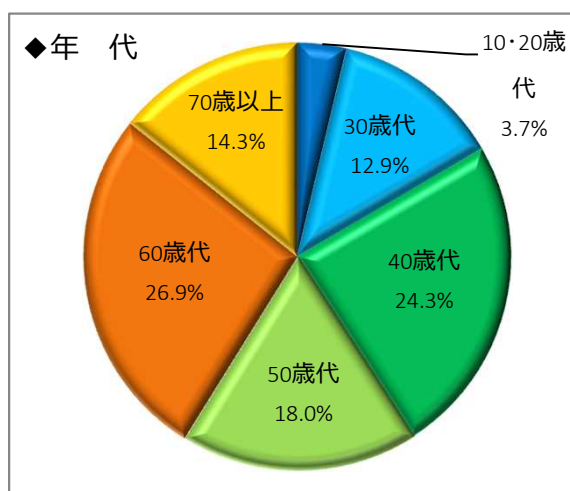
◆ 性別

	人数	割合
男性	214	61.1%
女性	136	38.9%
合計	350	100.0%



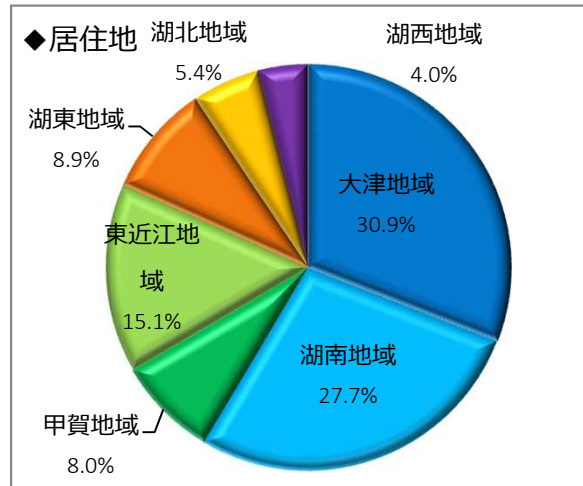
◆ 年代

	人数	割合
10・20歳代	13	3.7%
30歳代	45	12.9%
40歳代	85	24.3%
50歳代	63	18.0%
60歳代	94	26.9%
70歳以上	50	14.3%
合計	350	100.0%



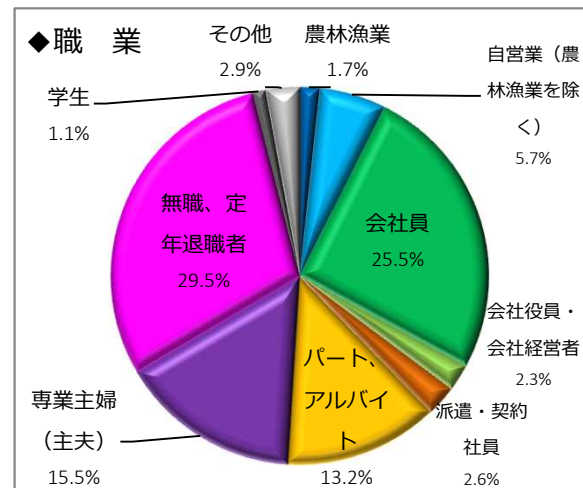
◆ 居住地

	人 数	割 合
大津地域	108	30.9%
湖南地域	97	27.7%
甲賀地域	28	8.0%
東近江地域	53	15.1%
湖東地域	31	8.9%
湖北地域	19	5.4%
湖西地域	14	4.0%
合 計	350	100.0%



◆ 職 業

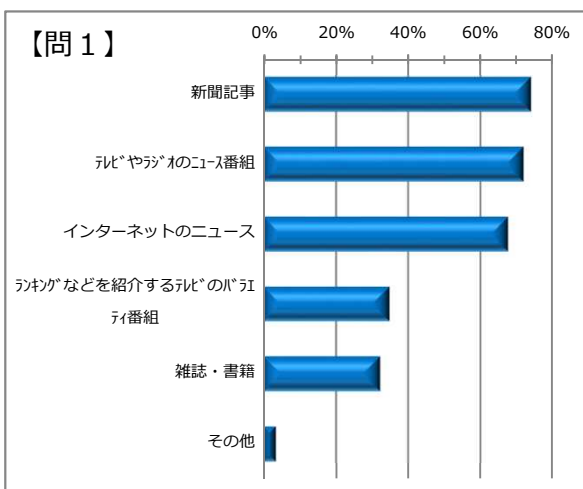
	人 数	割 合
農林漁業	6	1.7%
自営業（農林漁業を除く）	20	5.7%
会社員	89	25.5%
会社役員・会社経営者	8	2.3%
派遣・契約社員	9	2.6%
パート、アルバイト	46	13.2%
専業主婦（主夫）	54	15.5%
無職、定年退職者	103	29.5%
学生	4	1.1%
その他	10	2.9%
合 計	349	100.0%



【問 1】 あなたは日ごろ、どのような形で統計データや統計調査の結果を目にしていますか。（回答はいくつでも。回答者数：350）

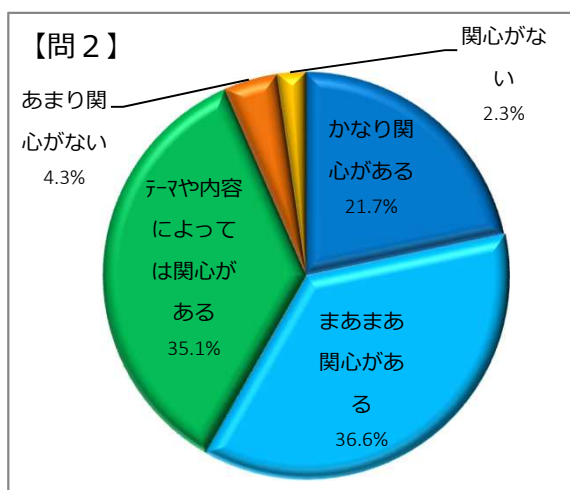
	人 数	割 合
新聞記事	259	74.0%
テレビやラジオのニュース番組	252	72.0%
インターネットのニュース	237	67.7%
リンクなどを紹介するテレビのバラエティ番組	122	34.9%
雑誌・書籍	113	32.3%
その他	12	3.4%

（回答者数に対する割合が高い順）



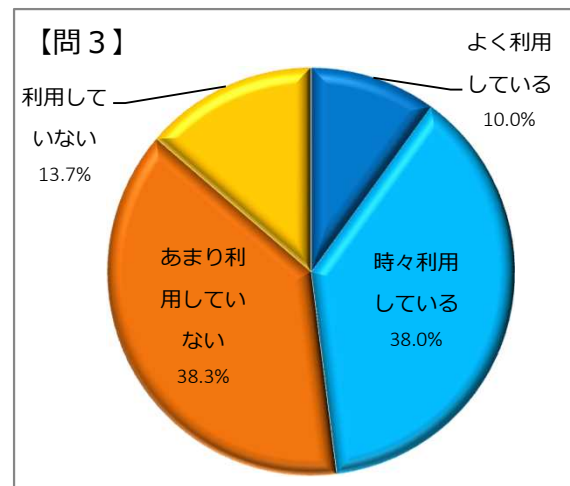
【問2】あなたは統計データや統計調査の結果に関心がありますか。（回答は1つ。回答者数：350）

	人数	割合
かなり関心がある	76	21.7%
まあまあ関心がある	128	36.6%
テーマや内容によっては関心がある	123	35.1%
あまり関心がない	15	4.3%
関心がない	8	2.3%
合計	350	100.0%



【問3】あなたは日ごろ、統計データや統計調査の結果を利用することがありますか。（回答は1つ。回答者数：350）

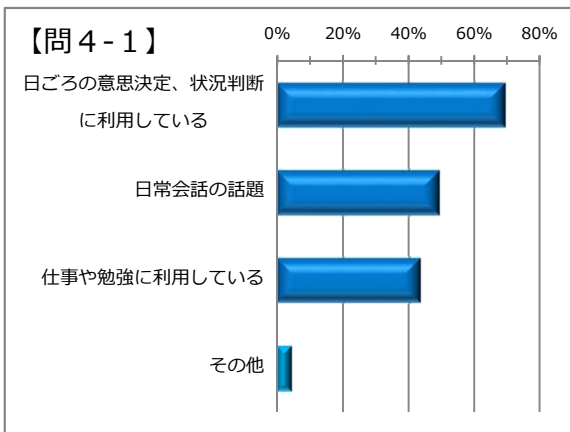
	人数	割合
よく利用している	35	10.0%
時々利用している	133	38.0%
あまり利用していない	134	38.3%
利用していない	48	13.7%
合計	350	100.0%



【問4-1】問3で「よく利用している」「時々利用している」を選択された方にお尋ねします。統計データや統計調査の結果をどのように利用していますか。（回答はいくつでも。回答者数：168）

	人数	割合
日ごろの意思決定、状況判断に利用している	117	69.6%
日常会話の話題	83	49.4%
仕事や勉強に利用している	73	43.5%
その他	7	4.2%

（回答者数に対する割合が高い順）



【問4-2】問3で「よく利用している」「時々利用している」を選択された方にお尋ねします。具体的にどのような統計データや統計調査を利用していますか。調査名を教えてください。（回答はいくつでも。回答者数：168）

	人数	割合
国勢調査	89	53.0%
家計調査	84	50.0%
全国消費実態調査	60	35.7%
県民(市町民)経済計算	49	29.2%
毎月人口推計調査	47	28.0%
社会生活基本調査	47	28.0%
小売物価統計調査	46	27.4%
労働力調査	45	26.8%
住宅・土地統計調査	40	23.8%
産業連関表	35	20.8%
経済センサス	29	17.3%
鉱工業指数	20	11.9%
就業構造基本調査	16	9.5%
個人企業経済調査	15	8.9%
農林業センサス	11	6.5%
その他	22	13.1%

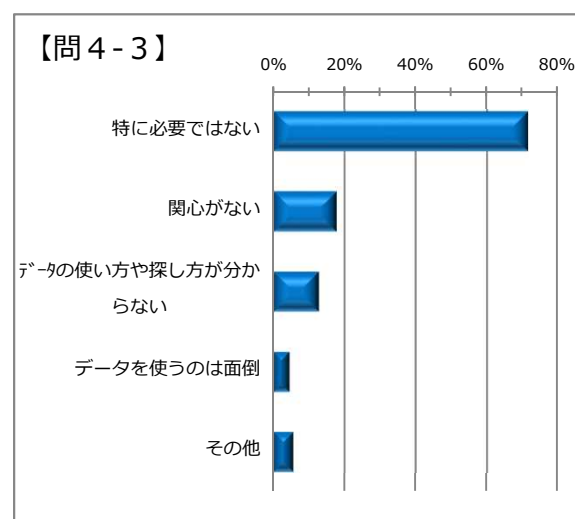
(回答者数に対する割合が高い順)



【問4-3】問3で「あまり利用していない」「利用していない」を選択された方にお尋ねします。統計データや統計調査の結果を利用しないのはなぜですか。（回答はいくつでも。回答者数：182）

	人数	割合
特に必要ではない	130	71.4%
関心がない	32	17.6%
データの使い方や探し方が分からない	23	12.6%
データを使うのは面倒	8	4.4%
その他	10	5.5%

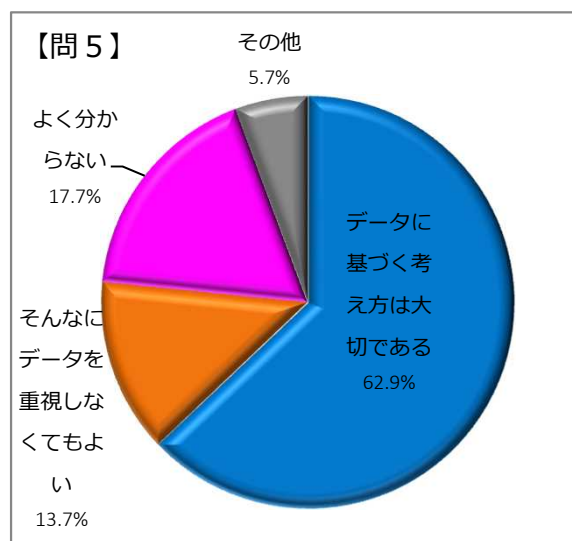
(回答者数に対する割合が高い順)



【問5】近年、「Evidence based Policy」（証拠（＝データ）にもとづく政策形成）という考え方が広まっています。行政の施策においても、データに基づく合理的な政策の策定や客観的な評価という考えが広がっています。この考えについて、どうお考えですか。

（回答は1つだけ。回答者数：350）

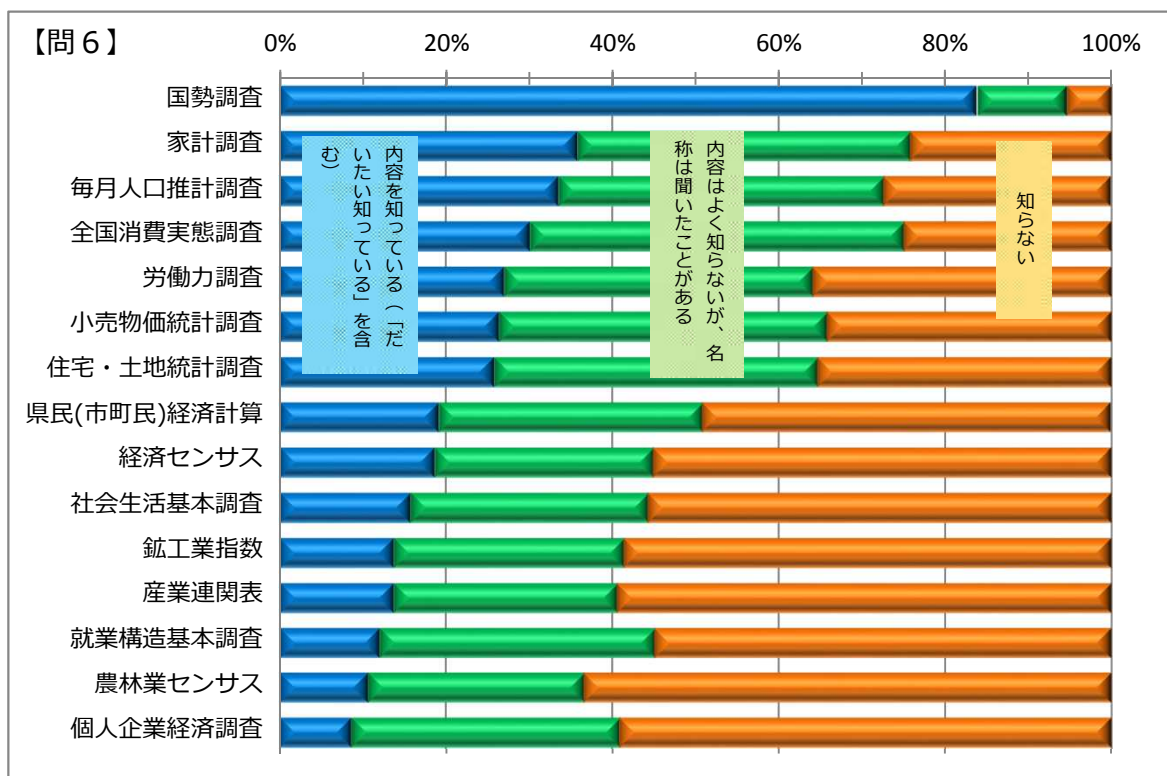
	人数	割合
データに基づく考え方は大切である	220	62.9%
そんなにデータを重視しなくてもよい	48	13.7%
よく分からない	62	17.7%
その他	20	5.7%
合計	350	100.0%



【問6】県統計課が所管している以下の統計調査について、どのくらい知っているか教えてください。（回答は1つだけ。回答者数：350）

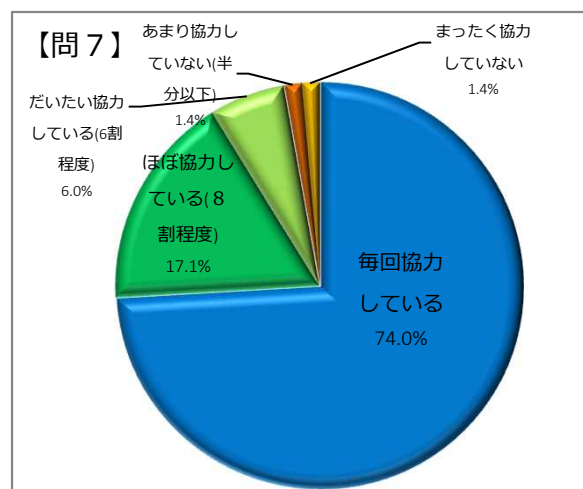
	人数			割合		
	内容を知っている （「だいたい知っている」を含む）	内容はよく知らないが、 名称は聞いたことがある	知らない	内容を知っている （「だいたい知っている」を含む）	内容はよく知らないが、 名称は聞いたことがある	知らない
国勢調査	293	38	19	83.7%	10.9%	5.4%
家計調査	125	140	85	35.7%	40.0%	24.3%
毎月人口推計調査	117	137	96	33.4%	39.1%	27.4%
全国消費実態調査	105	157	88	30.0%	44.9%	25.1%
労働力調査	94	130	126	26.9%	37.1%	36.0%
小売物価統計調査	92	138	120	26.3%	39.4%	34.3%
住宅・土地統計調査	90	136	124	25.7%	38.9%	35.4%
県民(市町民)経済計算	67	111	172	19.1%	31.7%	49.1%
経済センサス	65	92	193	18.6%	26.3%	55.1%
社会生活基本調査	55	100	195	15.7%	28.6%	55.7%
鉱工業指数	48	97	205	13.7%	27.7%	58.6%
産業連関表	48	94	208	13.7%	26.9%	59.4%
就業構造基本調査	42	116	192	12.0%	33.1%	54.9%
農林業センサス	37	91	222	10.6%	26.0%	63.4%
個人企業経済調査	30	113	207	8.6%	32.3%	59.1%

（内容を知っている（「だいたい知っている」を含む）の割合が高い順）



【問7】あなたは、国勢調査等の国や地方公共団体が実施している統計調査（民間が行っているものは除きます。）について、協力をしていますか。（回答は1つだけ。回答者数：350）

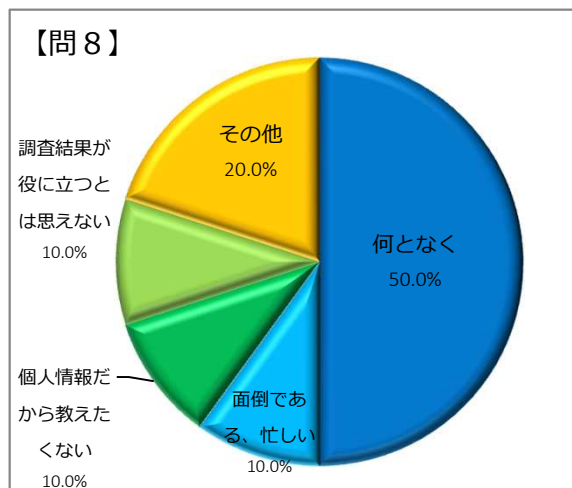
	人数	割合
毎回協力している	259	74.0%
ほぼ協力している(8割程度)	60	17.1%
だいたい協力している(6割程度)	21	6.0%
あまり協力していない(半分以下)	5	1.4%
まったく協力していない	5	1.4%
合計	350	100.0%



【問8】問7で「あまり協力していない」「まったく協力していない」を選択された方にお尋ねします。その理由は何ですか。（回答はいくつでも。回答者数：10）

	人数	割合
何となく	5	50.0%
面倒である、忙しい	1	10.0%
個人情報だから教えたくない	1	10.0%
調査結果が役に立つとは思えない	1	10.0%
その他	2	20.0%
合計	10	100.0%

（回答者数に対する割合が多い順）



【問9】自由に記述してください。（抜粋）

- ・一般の方には、あまり馴染みがないように思えますので、具体的に活用方法（日常生活など）を示すと、興味を持ってもらえるのではないかと思います。
- ・医療の仕事をしています。統計は重要だと考えています。医療分野においてEvidenceに基づく治療はスタンダードになっています。
- ・どのような統計データを集め、分析したかを広報誌で開示して、県の職員だけでなく、住民にも理解できる体制が必要。
- ・調査データをまとめることも大切であるが、そのデータを有効活用できる支援をしていく環境整備が必要であると考えます。
- ・政策決定や意思決定の際に、エビデンスは重要であるという認識は広がっています。統計調査は今後も必要だし、さらに活用されるべきだと考えます。
- ・統計情報は収集することも重要だが、それをどう活用していくかはもっと重要だと思う。情報を有効に活用して滋賀県の将来計画の実現にあたって、どのような施策を行うのが有効かといったことについて計画的かつ戦略的に実施してほしい。
- ・地方が豊かになるようにデータに裏付けされた取組を期待しています。
- ・データの重要性は十分理解できますが、日常生活における具体的な利活用が難しいように感じています。物価指数等を参考にはしていますが、日常の買物に反映できていないのが実態です。
- ・統計データ、統計調査はあまりにも多くて、どのデータを使用したら良いのか分からなくなることがある。
- ・統計結果をどのようにすれば見るができるのか、よく分からないケースが多い。国民が誰でもいつでも見るができるように情報案内してほしい。

・統計調査の種類が多く、市民の理解が得られにくいのではないかと思います。統計調査は、基礎データとして大変重要だと思います。それだけに市民に対する理解度を高めるため、出前授業などは大切だと感じます。調査協力を求めても、情報の保護の観点で不信感を持っている人が散見されます。データの使われ方の理解が得られていない証拠とも取られます。継続的なPRが必要だと思います。

・行政活動、議会活動にどのように活用されているか、仕組みが見えません。

・県がこれまで実施した統計調査の結果に関して、どういう形で政策立案等に有効活用されてきたのか事例を知りたいです。

・統計データを活用せずに、感覚だけで物事を論ずることに説得力はないと思う。

・統計データを活用してほしいと思われるなら、どういう場面に使えるかということ、一般市民にも分かるように掲示しておく必要があると思う。どんな時に、何を見たらいいのかも分からない状況で、ただ統計調査をしているという自己満足に陥っているのではないですか。

・統計も行政には当然必要なものだと思います。そのための協力も惜しみません。しかし、一般庶民からすると、個々の結果はさしたる重要な情報ではありません。興味があるのは、そのデータを活用して行政がどのような施策を取ったかです。私としては、行政がデータに基づき、どのような行動を起こしたかを知りたい。

・データ活用については、これからの社会においては不可欠になってくると思っています。ただ、データ収集はできても、その後の分析や見通しを確定する場合に、正しくデータを評価できる能力が必要になると思います。また、データから問題点、改善点、長所、短所など色々な観察ポイントを見出す力も、一般市民には求められてくるはずですが。教育の場で、データ分析に関する授業なども取り入れてはどうかと思います。また、一般市民向けにもそういった講座があれば良いと思います。

・統計調査の結果について、市民によく分かるように、情報機関（新聞等）を使って知らせることが良い。市民に知らせることが、調査協力に一番良いツールである。

・統計数字の意味や、データの見方が分からないものが多い。啓蒙活動や理解を深めるための補足資料がどこにあるのかなどを含めて情報があればいいと思う。

・行政側にもうまく伝えるプロを育てる義務がある。見ていない県民がダメだは、ダメ！！